
スピン・オフ小説 あんたはすごい！

水本爽涼

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

スピン・オフ小説 あんたはすごい！

【Nコード】

N3044X

【作者名】

水本爽涼

【あらすじ】

時間研究所に登場した塩山満のスピン・オフ小説。

第16回

その日は事もなげに一日が過ぎ、少し身体がかつたるかつたので、昨日とは真逆に、すんなりと退社し、寄り道はせず家へ帰った。出入口で警備員の禿山さんとは違う別の交替要員がいたが、最近になつて赴任されたので、もうひとつ人となりを知らず、軽く礼をして退社するに留めている。家へ帰ると、中は空虚で満たされ、住まう者が私一人のせいか、どことなく陰鬱に沈んでいる。その閉塞感に耐えきれず、私は直ちに窓という窓を開け放った。たちまち、秋の涼風が流れ、快くとはいかない迄も、家の中を開放していく。吸う息も少し冷んやりと新鮮に感じられる。さて、人心地つくと、急に腹が空いてきた。幸いにも冷凍しておいたカレーの残りがあつたので解凍し、サラダを余つた野菜で簡略に作り、夕飯を済ませた。

次の日の夕方、仕事を終えた私は、みかんへ寄つてみることにした。隔日の今日だから、まだ男は現れていないに違いないが…とは思えたが、気が急いたので寄つてみることにしたのだ。社の出入口では、知己の禿山さんが警備室の中に見えた。例の仏様ののような丸禿頭を照からせ、俯き加減だから余計に眩い。私が通過しようとする俄かに顔を上げ、ニコツとした笑顔で軽く頭を下げられた。当然、私も笑顔で軽い礼をし返し、社員通用門を出た。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3044x/>

スピン・オフ小説 あんたはすごい！

2011年12月6日00時52分発行